

『終活』

今では広く知れ渡りよく聞く言葉となりました。
2012年には流行語大賞のトップ10にも選ばれています。

2030年日本は、かつてない高齢化社会を迎えます。

その10年前の2020年の段階で「団塊世代」が後期高齢者となります。
わずかに、6年後のことになります。2020年には「多死時代」が来ることを意味しています。
それだけではありません。そのころには単身化が進むと予想されています。つまり、今以上に一人暮らしの中高年「おひとりさま」が増えるのです。
こういったことをふまえて今のうちから死と向き合いより良く生きようとする終活は素晴らしいことだと思います。

「終活の概念とは、より豊かに生きるために取り組むこと」

終活という言葉が市民に知れ渡り実際に自分の最期をどのようにしたいのか考える人が増えてきていることは、間違いない事実だと思います。
しかし、終活がこれほどまで認知されてきているにもかかわらず、どういうものであるのか正しくご理解されていない方がまだ大半だと感じております。

終活とは、単に「最期をどのように迎えるのか」「どのようなお葬式を望むのか」ということだけではございません。前述させて頂きましたが、「終末を迎えるまでの日々を、いかに豊かに生きるのか」を考えることが大切なこととなります。

命には限りがありますが、この事実を受け入れておられますが、まだまだ、先のことと考えるあまり気にかけておられないのが現状だと思います。

終活の第一のメリットはこの意識を変えることができることにあります。

例えば、あと10年の命だと宣告を受ければ誰もその日その日を大切に生きていこうと思うものです。
そうすると、考えなければいけないのが、そのために何をすればいいのか、それに必要な経済力はどれほどあるのか、その間に病気になったり、認知症になったらどうすればいいのかというところまで考えておく必要があります。

そして、「自分が生きてきた証」人生の終焉であるお葬式をどのようなものにしたいのか、そのための費用はどれ位残しておくべきなのかを想定しようとする行動をおこすこととなります。これらのことを具体的にしておくことで豊かな人生をおくることができるようになってきます。
繰り返しになりますが、「終活とは豊かな後半生を送るためのもの。」

このことを、お伝えできるのは、事前相談です。

詳しい内容については、お問い合わせいただくか事前相談にお越し下さい。